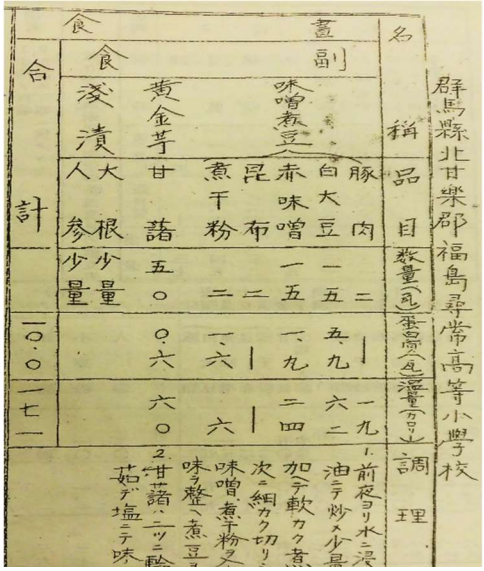
今日のこんだてについて

甘楽町学校給食センター

12月7日は「甘楽町学校給食の日」

今日は「甘楽町学校給食の日」にちなんだ献立「みそスチュー」です。

この献立が考え出されたのは、今から87年前の昭和7年です。昭和初期の群馬県の青年の体格は、他県の人に比べると劣っていたそうです。それを改善するために、みそスチューや豆味噌など「栄養を考えた給食」が、出されるようになりました。



当時の献立表

昔の「みそスチュー」はどんなの？

当時は、今では当たり前のように食べている肉や魚、乳製品を手に入れるのは難しい時代でした。ですからシチューを作るのは大変だったと思います。たんぱく質が取れるように畑のお肉といわれている「大豆」を使ったり、コクや旨味が出るように煮干しや豚の脂を使ったりして作っていたようです。牛乳やバターが入っていないので、現代のシチューとはすいぶん違っていたと思いますが、子どもたちの健康を願って考えられた愛情たっぷりの料理だったのではないでしょうか。

「甘楽町学校給食の日」って、どんな日？

昭和7年12月7日に日本で最初に栄養を考えた学校給食が甘楽町の福島小学校で始まりました。昭和9年11月には、昭和天皇が侍従を福島小学校につかわし学校給食の様子を視察されました。この時のことを記念して、「給食記念碑」が福島小学校の校庭に建てられています。

給食記念碑

そして、2012年に県立歴史博物館所蔵の資料から当時の献立表などが見つかり、献立が再現されました。町では、この年「学校給食発祥の地」として「甘楽町学校給食の日」（12月7日）を制定しました。毎年この日の前後の給食に当時のメニュー「みそスチュー」「豆みそ」などが出されるようになりました。